

令和元年6月20日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370002

研究課題名(和文) 西田幾多郎第二期哲学の深化と国際化

研究課題名(英文) Deepening and internationalization of Nishida Kitaro's philosophy in his second phase

研究代表者

トランブレイ ジャサント (Tremblay, Jacynthe)

南山大学・南山宗教文化研究所・研究員

研究者番号：90724279

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：京都学派の創始者であり、日本を代表する哲学者である西田幾多郎(1870-1945)が1923年から1932年(以下「第一期」と略)に執筆した「場所」および「論理」に関する論考を翻訳・解析した。西田幾多郎全集4,5,6巻をフランス語訳(世界初)・出版した。難解と言われる西田の包含的論理を応募者独自の手法により構文解析した。さら倫理学、文体論からの解釈、近代物理学との相関等、第一期の哲学を新しい視点から解読した。成果を4冊の書籍、査読付き論文9報、国内外での22件の講演で報告した。研究成果に対して「日本・カナダ文学賞」、「学術出版物著者賞」、3件の出版助成金を受領した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「場所」および「論理」等の西田哲学の重要な概念が展開された第一期の哲学諸論文が収められた西田幾多郎全集4,5,6巻をフランス語に翻訳、詳細な注釈を加えて3冊の書籍を刊行した。これは世界初であり、西田哲学への世界の識者のアクセスを可能にした。難解と言われる西田の包含的論理を応募者独自の手法により構文解析した。従来、禅仏教との関連で語られることが多い西田哲学を倫理学、文体論、近代物理学との相関等、第一期の哲学を新しい視点から解読し、論文、講演を通じて国内外の研究者に認識させることができた。西田哲学の啓蒙書の刊行、カナダやフランスの大学博士論文の審査員としても活動した。

研究成果の概要(英文)：I translated and interpreted the discussions of Nishida Kitaro (1870-1945), a philosopher representative of Japan and the founder of Kyoto school. I concentrated on the concepts of "place" and "logic" from 1923 to 1932 (hereinafter referred to as "the second period"). I translated into French the fourth, fifth, and sixth volumes (first edition) of Nishida (the world's first) and published it. I analyzed Nishida's encompassing logic, which is said to be difficult, from my unique method. Furthermore, using a new point of view, I analyzed this period in relation to other areas of knowledge related to it, namely ethics, linguistic theory and modern physics. The results were reported in 4 books, 9 peer-reviewed papers, and 22 lectures in Japan and abroad. I received "Japanese-Canadian Literature Award", "Academic Publication Author Award", and three publication grants for research results.

研究分野：日本近代思想

キーワード：西田幾多郎 日本近代思想 場所 自覚

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 西田哲学の研究状況: 西田幾多郎(1870-1945)は日本近代哲学の創始者として知られ、彼の「純粹経験」「場所的論理」等の独自の概念は国内外の研究者から注目されている。しかしながら幾つかの論文には西田哲学を曲解している論述が散見される。とりわけ西田幾多郎哲学全集旧版(以下「NKZ」と略)の第4巻から6巻(1923-1934)に収録された彼の第一期の思想に関してその傾向が強い。本語を母国語としない哲学研究者に顕著のようである。

(2) 西田幾多郎全集の翻訳事情

「善の研究」に代表される初期の西田哲学(第1-3巻)の60-100%が英語翻訳されている。他方第一期のドイツ語、英語の翻訳率は全体で30%以下である。この時期の全集の翻訳が少ないことが上述の第一期西田哲学の研究に影響していると思われる。

2. 研究の目的

西田幾多郎の第一期哲学、とりわけ「場所」および「論理」の概念を深化させることを目的とする。関係論文の完訳を遂行すると共に「限定」「包むこと」「関係性」等の論考を「包括的論理」として捉え直す。さらに倫理学視点からの解釈、当時の言文一致運動が西田の思考に与えた影響等、これまで殆ど顧みられたことのない新しいテーマを世界に発信する。

3. 研究の方法

(1) 第一期西田哲学の深化: この時期の重要な観念である「場所」「論理」を、その包括的性格から解析する。関係論文をデジタル化し、「場所」「包含する」等のキーワードを抽出し、統計的に解析する。次いでこれらの語句と前後の文節の関係を2次元配置し相互関係を明らかにすることで、西田の論理を解釈する。更に近代量子力学が西田哲学に与えた影響、神学者 K. Rahner の近代神学との比較、西田における他者性の解析等、これまで殆ど取り上げられたことのない視点から西田哲学を捉えなおす。

(2) 第一期西田哲学の国際化: 第一期論文のフランス語訳: NKZ4, 5, 6 を原文から直接翻訳する。これは世界初の試みである。論文中に引用される用語・出典を詳細に調査し、研究書としても第1級の価値を持たせる。成果を研究書、論文、講演、セミナーの形式でフランス語、英語、ポルトガル語、日本語により発信する。第一期哲学の海外への普及を図るため、基礎概念を解説した啓蒙書を刊行する。

4. 研究成果

(1) 自己の概念

迷へる自己

西田は「道」の概念を非常に重要視している。この言葉は「道」「路」「途」を含む多数の複合語として用いられ、西田の論文に300回近く登場する。この概念は、西田の主張の構造の中で(論理的、倫理的、そして実存的なレベルで)様々な機能を果たしている。また、西田は「道」を強調するのと同時に、「道」に沿って歩くという「自己」の概念、さらには自己と世界との関係、特に自己と彼/彼女の身体との関係を深めている。そして、西田は同時にこの「道」が決して与えられていないという事実、この世界において自己が行動し、他者との関係に従事することを主張する。結局のところ、その道は目的を欠いているので、逆説的に、人間が自分の道を見つけることができるのは、彼/彼女が「疑う」「迷う」時の

みであると結論する。

場所としての自己

西田がキリスト教の神学者とある種の神学のテーマに言及する目的は、彼自身の哲学的テーマをより深く掘り下げること、とりわけ宗教的事実の適切な理解と、彼の「場所の論理」との対応に由来する。本論理は、自己を絶対的な無の次元、あるいは真の自己の次元にまで拡大することを強調する。すべての西田の主張は「自己は場所である」という人間存在の理解の確約に通じる。言い換えれば、自己は客観的な知識の場、そして他者の出会いの場となる。このような仕方でも確立することで、絶対的否定から出発して、人間は真の個人または本当の自己となる。

自己と環境との関係

個人と環境の関係は、「物はある環境に於いてある」という事実に基づく。西田はこの概念を「私」と「汝」の関係にまで拡張する。「私」と「汝」が関係しあうことができるのは、互いに共通の環境、または同じ環境にある故である。西田は、すべての個人が彼らの環境によって決定されることを示す。西田はさらに進んで、個人自身が自分の環境を限定したり変容させたりする能力を持っていると主張する。

(2) 西田と科学

生物学 動物と人間との関係

西田と同時代の科学研究は、動物と比較して、人間の出現が種類の違いではなく程度の違いであること、そしてすべての認知機能が特定の生物学的基礎を持っていることを明らかにした。これらの革新的な研究から、西田は動物から人間への移行における連続性と非連続の設定を試みた。特に、彼は動物の意識的側面と人間の身体的側面に焦点を当てた。この点で、彼は重要な問題、すなわち人間の動物性の開発における先駆者と見なすことができる。彼は人間の存在の重心が理性ではなく身体であることを示した。西田の動物に対する考察は、哲学と宗教の歴史が人間の霊的な部分とその動物の部分、ひいては動物の王国全体との間に確立した根本的な違いを解消するのに役立つことができる。人間が動物界と何を共有しているのか、すなわち彼自身の身体と彼自身の動物性とをより積極的に考えるようになる。

物理学 西田と Niels Bohr

西田は、西洋に「科学の危機」が起こったほぼ相当する時期に生を受けた。この危機は、特に数学と物理学の理論的基礎の観点から、重要な変化を引き起こした。西田の生涯は科学の分野に起こった変化と共にあった。この論争は重大な認識論的な問題と、科学の方法論に於ける新しい概念の導入を孕んでいた。西田は、この「科学の危機」に哲学的に反応しよう試みた。科学、特に量子力学の入念な観察を通じて、自分の哲学の底にある独創的な論理を明確にするようになった。Bohr が提唱した「相互補足性」の概念において観測者の地位を認めることを極めて重要な要素と考えた。この「観測」の概念を、より広い歴史的事実の世界、特に人間の精神と自然界との分離できない関係に取り入れた。さらに「相互補足性の原理」の概念は、西田が後期に発展させた「矛盾的自己同一」、「行為的直観」、「歴史的身体」という根本概念の手がかりとなった。

(3) 西田の文体

文体と論理との繋がり

西田の中期の論文のフランス語訳を通して、西田哲学を分析するための独自の方法を開

発した。西田の論理が彼の書面による文体と本質的に関連しているという事を見出し、この文体を注意深く調べることによって、西田の構文解析から、彼の論理がどのように機能するかを、6つの論理的議論のモードとそれらの相互関係の区別から検出することができる。

西田と言文一致

西田幾多郎の文体は、明治、大正期に多くもたらされた西洋の科学的、文学的作品の日本語訳に影響を受けた。極めて早い言語的な転換の時代に置かれて、この転換に由来する「言文一致」の文体を積極的に活用した彼は、自身の作品によりこの文体の定着に大きく貢献しただけでなく、新たな哲学的言語を創出した。

19世紀の終わりまで、日本語の文章は、古典中国語に由来する四つの基準文体(漢文、候文、和文、和漢混交文)を規範としていた。夏目漱石、森鷗外といった作家たちはその文体を捨て、「言文一致」という口語に基づく新たな文体を採用した。西田もまた、「言文一致」を取り入れた。なぜなら、西田は古典日本語が曖昧である一方で、「言文一致」であれば自由に自身の哲学的思想を述べることができると考えたからである。独自の哲学的文体を発展させながら、西田は見事に近代日本語の文法や語彙の成立に貢献した。

(4) 西田幾多郎全集のフランス語訳

西田幾多郎全集(新版)に収録された以下の3巻のフランス語翻訳を行い、出版した。

- ・第4巻『働くものから見る者へ』(1927)
- ・第5巻『一般者の自覚的体系』(1930)
- ・第6巻『無の自覚的限定』(1932)

(5) 西田哲学に関する研究書

新の研究成果を含み、かつ西田哲学の初学者への啓蒙をも目的とした研究書を執筆、出版した。目次を以下に示す。

・ 序言

第1章 Ma rencontre avec la philosophie de Nishida (西田哲学との出会い)

第2章 L'approche de la philosophie de Nishida (西田哲学へのアプローチ)

第3章 Le soi comme expression du monde (世界の表現としての個物)

第4章 La concomitance des contraires (矛盾するものの結合)

第5章 L'unité du corps et de l'esprit (身体と精神の合一)

第6章 Pensée et langage (思考と言語)

第7章 L'interprétation de la philosophie de Nishida (西田哲学の解釈)

第8章 Nishida et les science de son époque : introduction au concept de <lieu>

(西田と同時代の科学:「場所」の導入)

第9章 La topo-logique de Nishida (西田の場所的論理)

第10章 L'altérité absolue (絶対他者)

第11章 La relation je/tu (私/汝の関係)

・ 結言

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

1. J. Tremblay: Humanimalités. Continuités et discontinuités dans l'oeuvre de Nishida (人間性と動物性 - 西田に於ける連続と非連続), *Théologiques*, 査読有, 23(1), 135-161 (2015).
2. J. Tremblay: Translating Nishida Kitaro's Self-Awareness. The System of Universals - The linguistic resources of Nishida's Philosophy ” (西田の「一般者の自覚的体系」の翻訳 - 西田哲学の言語学的潜在性), *西田哲学会年報*, 査読有, 14, 145-171 (2017).
3. J. Tremblay: Nishida et Bohr - L'influence du concept de complémentarité dans la philosophie du dernier Nishida (西田と Bohr - 後期西田哲学に於ける Bohr の相互補足性の影響), *European Journal of Japanese Philosophy*, 査読有, 3, 113-133 (2018).
4. J. Tremblay: Convergences between Karl Rahner and Nishida Kitaro: Theology of Death and Historical Body (Karl Rahner と西田幾多郎の一致：死の神学と歴史的な身体), *Tetsugaku*, 査読有, 3, (2019)出版予定.
5. J. Tremblay: Le soi égaré - le concept de voie chez Nishida (迷へる自己 西田に於ける道の概念), *Cipango - Cahiers d'études japonaises*, 査読有, (2020)年出版予定.

〔学会発表/講演〕(計 22 件)

1. J. トランブレイ: 西田の彼自身の論理に関する散乱した言葉, 西田哲学会 12 回年次大会, 西田幾多郎記念哲学館, (2014).
 2. J. Tremblay: As relações entre o pensamento filosófico de Nishida e o seu estilo escrito (西田の哲学思想と文体との関係), *ブラジル ロンドリーナ州立大学*, (2014).
 3. J. Tremblay: Nishida's use of the genbun-itchi in Self-Awareness: The System of Universals (『一般者の自覚的体系』西田が利用した言文一致), *Symposium "Opening up Japanese Philosophy: The Kyoto School and After"*, 九州大学, (2016).
 4. J. Tremblay: Quelques concepts fondamentaux de Nishida à la lumière de la physique moderne (近代物理学の観点から西田の基本的な概念), *パリ デイドラ大学*, (2017).
 5. J. トランブレイ: 西田幾多郎に於ける言語学的選択の哲学的結果「である」という繋辞の事例, 日仏翻訳学研究第 4 回研究会「文学における『生命感』をいかに翻訳すべきか」, フランス翻訳学学会(SoFT), 京都, (2018).
- その他 17 件の国内外での講演。

〔図書〕(計 6 件)

1. J. Tremblay: NISHIDA Kitarō, De ce qui agit à ce qui voit(西田幾多郎、『働くものから見るものへ』)仏語訳, *Presses de l'Université de Montréal*, 総ページ数 364p (2015).
2. J. Tremblay: NISHIDA Kitarō, Autoéveil : Le Système des universels(西田幾多郎、『一般者の自覚的体系』)仏語訳, *Chisokudō Publications*, 総ページ数 539p (2017).
3. J. Tremblay: NISHIDA Kitarō, La Détermination du néant marquée par l'autoéveil (西田幾多郎、『無の自覚的限定』) 仏語訳, *Chisokudō Publications*, 総ページ数 450p (2019).
4. J. Tremblay: Je suis un lieu (私は場所である), *Presses de l'Université de Montréal*, 総ページ数 316p (2016).

その他国際共著 2 冊。

〔その他〕

- ・ 〔図書〕1 に対して西田哲学会より「西田哲学基金」受賞, 35 万円 (2015).
- ・ 〔図書〕4 に対して Canada Research Council (カナダ研究評議会) より Academic Publisher Award を受賞 (2016).
- ・ 〔図書〕4 に対して Canada (カナダ国芸術評議会) より (日本 - カナダ文学賞) を受賞, 100 万円 (2018).
- ・ 〔図書〕3 に対して西田哲学会より「西田哲学基金」受賞, 35 万円 (2019).

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: トランブレイ ジャサント

ローマ字氏名: TREMBLAY Jacynthe

所属研究機関名: 南山大学

部局名: 南山宗教文化研究所

職名: 研究員

研究者番号 (8 桁): 90724279

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。